



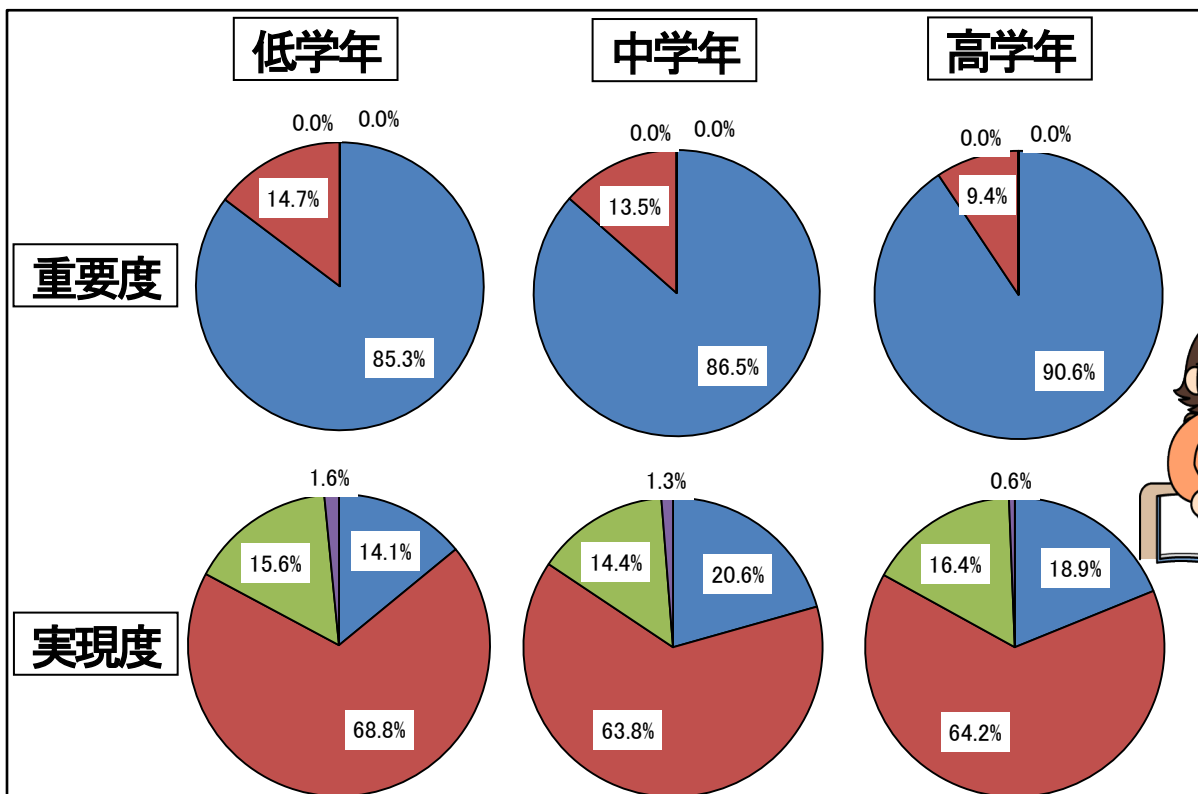
学校だより アンケート特集号



平成30年2月
京都市立桂東小学校
校長 和田 英明

後期の保護者アンケート結果です。結果の集計とそこからわかる傾向と今後の課題について、考察してみましたのでお知らせいたします。
抜粋した項目について、低学年・中学年・高学年と学年が進むにつれての割合はどう変わっていくかを調べてみました。

『自分の考えをしっかりと発表したり、友だちの意見をしっかりと聞いたりして、友だちと一緒に学習しています。』

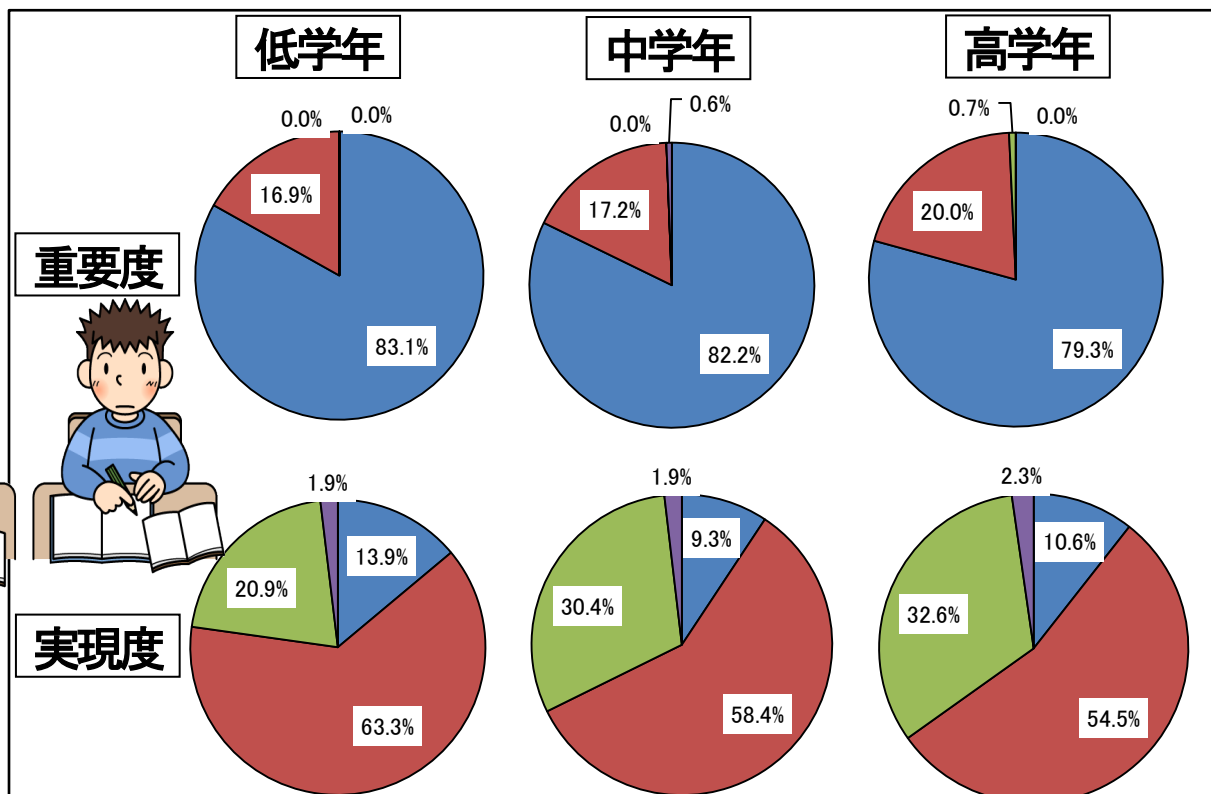


「重要である」が低学年・前期と比べてほとんど横ばいですが、中学年では1.9%、高学年では4.9%高い比率になっています。「聞く」「話す」「友だちと関わって学習する」を保護者の皆様께서大事に考えておられることがわかります。新教育課程でも「未来社会構築」「社会と共有」「社会と連携」という「社会に開かれた教育課程」が重視されています。“社会”という言葉が“Key word”となっています。一人ではなく、みんなと関わって学習する学び合いのある学習を通して、課題解決していく力が必要になってきます。

子どもたちのアンケート結果（実現度）では「よく出来ている」が低学年51.3%、中学年46.1%、高学年39.5%と学年が上がるにつれて比率が減少していきますが、「よく出来ている」と「大体出来ている」とを合すると、低学年・中学年・高学年ともに85%ぐらいを推移しており、高学年も結構高い数字となっております。一方、保護者の皆様から見た児童の実現度をみると、「よく出来ている」が低学年14.1%、中学年20.6%、高学年18.9%となっており、児童が答えた実現度よりかなり低い比率で、保護者との温度差がかなり大きいです。

授業では、学習のねらいに応じて“ひとり学び”“ふたり学び”“集団解決”…そして、“振り返り”という学習プロセスを経て、自分の考えを深めていく学習を推進しております。常に、他者との交流を通して互いに学び合う子を育てていきたいと考えております。「学び合いのある授業」が新教育課程が目指している「主体的・対話的で深い学び」をつくらんと考えています。ご家庭におかれましても、子どもの発達段階に応じた、自主的な学習習慣の形成にご理解・ご協力をお願いいたします。

『お子たちは、いつもよい態度で学習している。（話す、聞く、書く、座る姿勢…など）』

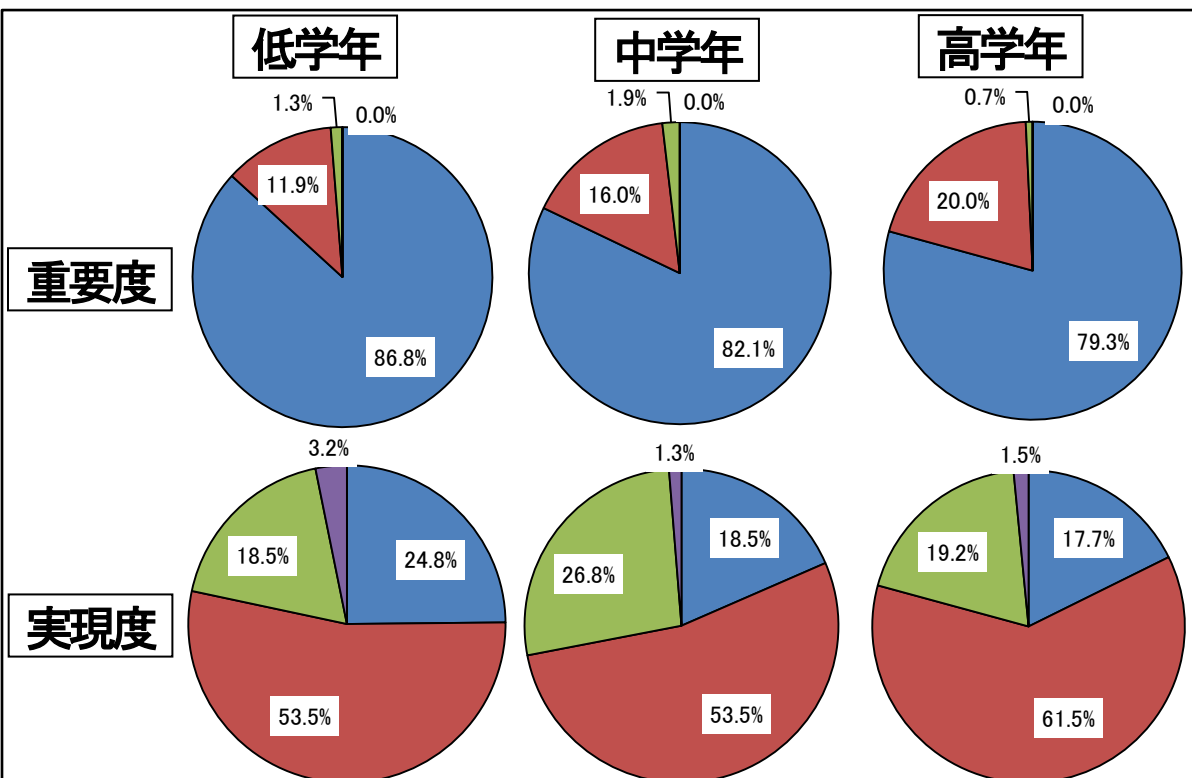


『重要度』は前期とほとんど同じ数字を推移していますが、『実現度』では「よく出来ている」が、前期と比べて、低学年では1.4%、中学年は7.7%、高学年は6%低くなっています。児童アンケートの『実現度』では「よく出来ている」が低学年37.7%、中学年23.5%、高学年23.5%となっており、保護者アンケートの『実現度』とはかなりの温度差があります。どうしても、家では気が緩み、姿勢も崩れがちのわが子を見ることがたびたびあるため、このような温度差になるのではないかと思います。

学校で学習中の子どもたちの様子を観ていても、姿勢の崩れている子どもが少なくないです。また、鉛筆を正しく持てていない子どもや学習に向かうエネルギーや気力、モチベーションが足りない子どものほとんどは、姿勢の崩れている子どもたちです。

姿勢と学力、姿勢と集中力の関係については前期のアンケート結果でも記載しておりますが、無理に正しい姿勢で座らせようとしても、別な筋肉が緊張する「随伴緊張」が起こるそうです。「まっすぐとはどういう感覚か」を身体で覚えないと、子どもに「姿勢を正しく」といっても無理だということです。姿勢を良くしようとしても、姿勢について正しく理解していなければ、無駄な力が入り、背中が痛くなったりして、かえって集中力が落ちてしまうこともあります。「筋肉や力をつかって姿勢を維持するのではなく、重力のままに自然にまっすぐ地球の中心に向かって落ちていく感覚で姿勢を保つこと」を身につけることが大切だそうです。なかなかイメージがもてないのですが、何事も幼い頃に身に付けると“ラクにスムーズに”身に付くものです。小学生なら、まだ間に合うと思います。あきらめずに取り組んでみましょう。

『お子たちは、家庭学習の習慣が身に付いている。』



『重要度』では「重要である」と「やや重要である」とを合わせた肯定的な回答が、前期同様、どの学年も98%超えを推移していますが、『実現度』では、「よく出来ている」が前期に比べて、低学年が3.4%、中学年が0.6%、高学年が3.7%低くなっております。保護者の皆様から見て、しっかり出来ているとは言い難いという結果です。

児童アンケートの『実現度』では「よく出来ている」が低学年65.7%、中学年55.0%、高学年46.7%となっており、保護者アンケートの『実現度』とは、まだまだ大きな温度差があります。子どもたちも家だとしても甘えが出てしまうこともあり、やむを得ないことなのかとも思いますが、発達段階に応じた家庭学習のあり方を親子で共通理解できれば、家庭におけるお子たちの主体的な学習につながっていくと思います。ただ、低学年の子どもたちにとって、自分で考えて取り組むことは難しいことだと思います。子どもにどんな学習を家庭でさせたらよいのか分からないと感じておられる保護者の方もおられると思います。やはり、学校での学習と連動した学習内容を中心に与えることになると思います。担任との連携も大切になってきます。担任からも気づいたことは、ご家庭に連絡させていただきますが、ご家庭で気になることがございましたら、担任までご連絡ください。

これから予測不能な時代に入ってきます。その時代を生き抜くための“資質・能力”を育んでいかなければなりません。そのためには、今、つけなければならない力の1つは「自学自習の習慣」です。前期にも記載しておりましたが、まず、各家庭の事情に応じて学習環境を整える必要があります。今後も、学校と家庭との連携を密にしていきたいと思います。ご協力、よろしくお願い申し上げます。

<保護者アンケートの自由記述欄より>

自由記述欄につきましては、励ましのお言葉や改善の要求など、様々なご意見をいただきました。今後、ご意見をもとにして、改善すべき所は教職員全体で取り組んでいきたいと思ひます。下記には、その一部を抜粋し、掲載しておきます。

◇「確かな学力」のNo.3について気づいたことです。最近では立ってとりくんだり、雑音の中、かえって集中が高まったり、リズムで体得したり等、社会的にもとらえ方が段々と変化してきているように感じます。目的は何かを外さなければ、何がよい態度となるのか、見直すことも一つの選択になれば…と思いました。

◇ 学校側の具体的目標を明確にし、保護者側から見て達成できているのかどうか、達成できていない場合は、今後、どのような取組が必要なのか、明確に具体的にしたいです。先生として、学校としての責務かと思ひます。

◇ 桂東小学校の子どもたちは明るい、優しい、本当にいい学校だと思います。ただ、あいさつだけが、ずっと残念だなあと思っていたので、初めてここに一筆書かせていただきます。朝、旗持ち当番で立っている時、通るみんなに「おはよう！」「いってらっしゃい」…など色々声かけをするのですが、本当に返事が少ないです…。こっちを向いて“ニコっ”としてくれる子は、たくさんいるので、“ニコっ”と笑顔で「おはよう」も言ってくれれば嬉しいなと思ひました。

◇ 参観の度に思うのですが、どの授業も私たちの子どもの頃とは違い「自ら考える」授業の展開がとても面白く、子どもたちが興味をもてる内容・方法で進められていると感じています。学校生活にも共通して指導していただいているのがよくわかり、とてもありがたく思ひます。

◇ 音読チェックカードの先生からのちょっとした一言をととても楽しみに励みがかんばっています。ハンコやサインだけでなく、お忙しい中でのちょっとした心が親子共々楽しみです。給食も美味しい、美味しいと楽しみにして、給食日より書いてくださるレシピは家庭でも必ず再現して我が家の定番メニューです。調理員の方々の暑い中、寒い中、工夫と栄養、心のこもった給食に本当に感謝しています。ありがとうございます。

自由記述欄の中には、その他にも厳しいご意見があります。厳しいご意見については、しっかり見直し、改善していきたいと考えています。

ただ、その中でも、保護者の皆様からは見えにくい給食に関わっている教職員の動きについて評価していただいていることを大変うれしく思ひ、「見えている人には、見ていただいているんだな」と感じ、これを励みとして今後も取り組んでいきたいと思ひます。わたくしたちは、全教職員が一致協力して「一人一人の子どもを徹底的に大切にする」という姿勢を堅持し、子どもたち一人一人の人権を徹底的に大切にし、一斉指導の中でも可能な限り個に応じた指導、取り組みを行っております。今後とも、ご理解・ご協力頂ますよう、よろしくお願い致します。

アンケートにご協力いただきありがとうございました。様々な課題や今後も伸ばしていきたい桂東の魅力などを知るうえで、大きな指針となりました。

また、アンケートの裏面の自由記入欄に記入いただいた事項に関しては、教職員及び学校運営協議会理事の方とも協議して、今後の学校運営に反映させていきたいと思っております。